

情報連絡員報告総括表(平成28年7月分)

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況								
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化						
製 造 業	食料品	1	3			4		1	3			4		1	2	1		3	1		4			4			3	1						
	繊維工業		3			3			3			3			2	1		2	1		3			2	1		1	2						
	木材・木製品			1		1			1				1			1		1				1		1				1						
	紙・紙加工品		1	1		2			2			2			1	1		2				2		2			1	1						
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化学・ゴム																																	
	窯業・土石製品	1	1	1		2	1		3			3		1	2			3		1	1	1		3			3							
	鉄鋼・金属		1			1			1			1			1			1		1				1			1							
	一般機器	1	2			2	1		2	1		2	1		2	1		3			2	1		1	2		3							
	電気機器			1		1				1			1			1			1			1		1				1						
	輸送機器		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
その他																																		
小計		3	13	4		18	2	1	17	2		17	3	2	12	6		17	3	2	12	6	2	17	1		14	6						
非 製 造 業	卸売業		1	1		2			1	1		2			1	1		2		X				2			1	1						
	小売業	2	3	1		2	4	3	3			4	2	1	2	3		3	3					5	1		1	3	2					
	商店街		1			1			1			1			1			1						1			1			1				
	サービス業	1	2	2	X				5			5		1	3	1		5						5			5			5				
	建設業	1	2	1					1	3		4			1	3		1	3					1	3		4			1	2	1		
	運輸業		1						1			1			1			1						1			1			1			1	
	その他		1									1			1				1					1			1			1			1	
小計		4	11	5					5	4	4	14	2		18	2	3	11	6	1	16	3		19	1		2	14	4					
合計		7	24	9					23	6	5	31	4		35	5	5	23	12	1	33	6	2	12	6	2	36	2	2	28	10			

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成27年7月～平成28年7月)

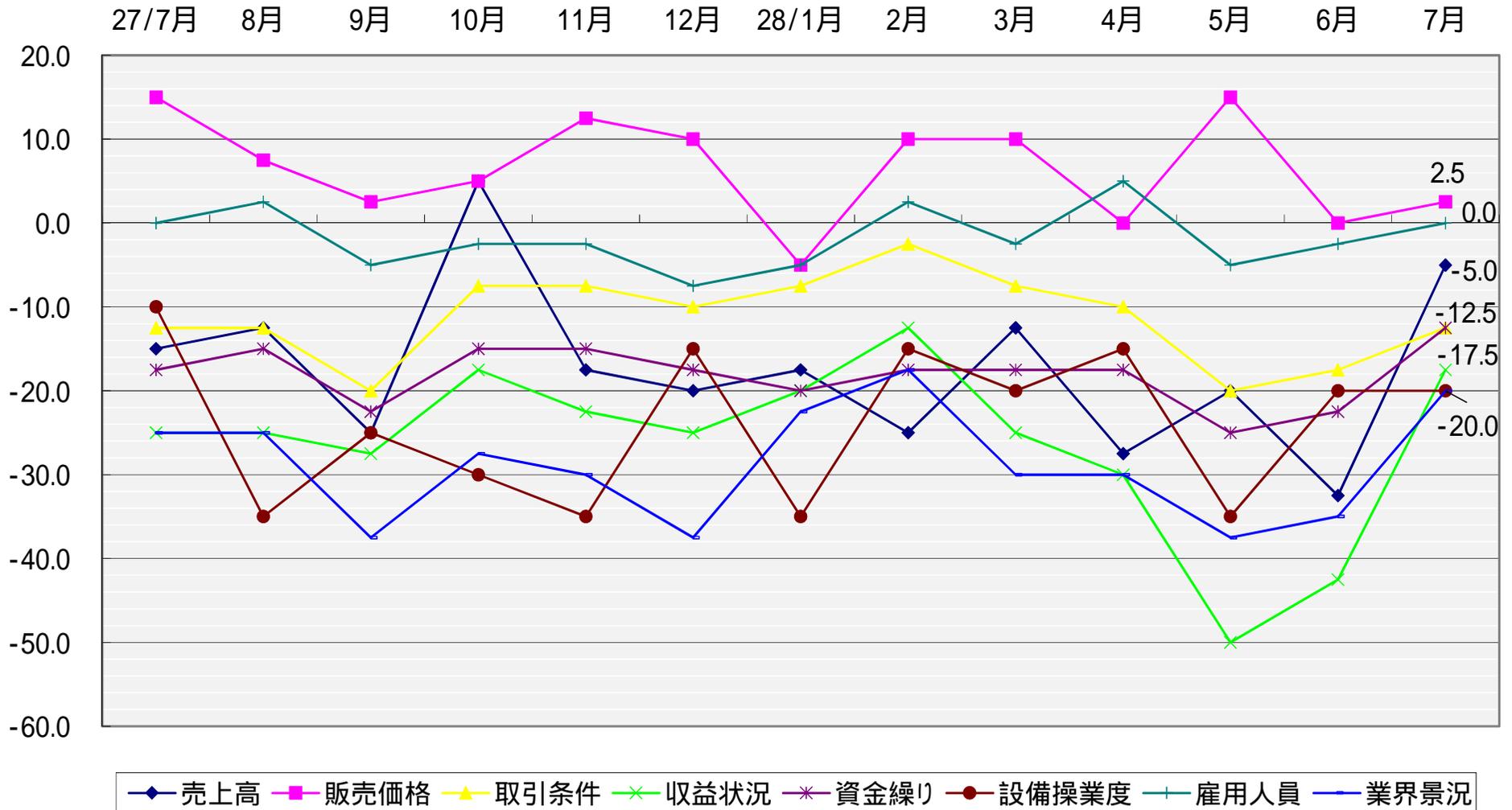
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	27/7月	8月	9月	10月	11月	12月	28/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	増減
売上高	-15.0	-12.5	-25.0	5.0	-17.5	-20.0	-17.5	-25.0	-12.5	-27.5	-20.0	-32.5	-5.0	27.5
販売価格	15.0	7.5	2.5	5.0	12.5	10.0	-5.0	10.0	10.0	0.0	15.0	0.0	2.5	2.5
取引条件	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5	-7.5	-10.0	-7.5	-2.5	-7.5	-10.0	-20.0	-17.5	-12.5	5.0
収益状況	-25.0	-25.0	-27.5	-17.5	-22.5	-25.0	-20.0	-12.5	-25.0	-30.0	-50.0	-42.5	-17.5	25.0
資金繰り	-17.5	-15.0	-22.5	-15.0	-15.0	-17.5	-20.0	-17.5	-17.5	-17.5	-25.0	-22.5	-12.5	10.0
設備操業度	-10.0	-35.0	-25.0	-30.0	-35.0	-15.0	-35.0	-15.0	-20.0	-15.0	-35.0	-20.0	-20.0	0.0
雇用人員	0.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	2.5	-2.5	5.0	-5.0	-2.5	0.0	2.5
業界景況	-25.0	-25.0	-37.5	-27.5	-30.0	-37.5	-22.5	-17.5	-30.0	-30.0	-37.5	-35.0	-20.0	15.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成28年7月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	当組合及び組合員企業とも、少しでも新規顧客の確保による消費拡大を目指した努力をしている。それに加え、守りの経営ではなく、漬物を食べてくれる方、食べ続けてくれる方を逃がさないようにとにかく新鮮でおいしい漬物商品の提供を重視して取り組む状況にある。
		醤油味噌	天候不順で好転にはならず、相変わらずの業況である。次回、「三重しょうゆ街道」(県下の醤油等の展示即売会)は、10月20日(木)～23日(日)にイオン東員店で開催する。6,000名の来客を見込んでいる。小学校への「しょうゆ出前授業」は、今年度も順調なスタートである。
		豆腐	昨年と比べ、原材料費、燃料費が若干安値である。
		製麺	昨年に比べると、やや持ち直してきた。伊勢志摩サミットが終わり、2か月を過ぎて、三重県が注目され、今後が楽しみである。業界として、伊勢うどんの注目は高まり、地域ブランドの価値を上げるように今後さらなる発展に向けていきたい。今後とも、伊勢うどんの発展に取り組んでいく。
	繊維工業	衣料縫製	慢性的な停滞感の中、現状を維持するのが精一杯である。現状で存続している企業ではあるので、何かしらの特質は持っていると思うが、その特質を今ひとつ活かしていきたくない様である。また、後継者有無の企業により展望も変わってきている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	6月と同じような状況で、大手は飲料関係を中心に顕著に数量を増やしている。県内メーカーは、特に需要が増えた分野もなく、ギリ貧状況である。
		古紙	7月期の仕入量は、前年比：段ボール・約98±3%位、新聞、チラシ・約93%±3%位、雑誌、雑紙、その他・合わせて約94%±5%位の中での推移である。前年並みになる組合員がある一方で回復までには程遠い組合員もある。やはり夏物の需要はあり、飲料や冷凍食品等の段ボールは好調の様で昨年並みの箱数量が流通していると感じる。しかしながら、箱の重量が薄物化・軽量化となり私たちの組合員の集荷量や業務効率が大きく変化している。少子高齢化、国内居住者の減少、スマホ等の使用などによる情報用紙の減少等による新聞雑誌の購入減少の傾向は着実に製紙原料古紙の流通量を減らしている。伊勢志摩サミットの観光ブームは、古紙の発生増加になっているはずだが、円高にもかかわらず、古紙の輸出価格は春先価格に戻り、製紙メーカーの古紙在庫は先月と一転して減少している。古紙の持去りは無くならず、知能犯の指導を受けた感がある。持去り行為者に罰が与えられるように古紙の持去りや万引き等を何度も繰り返す者は悪質な犯罪者として繰り返さないための罰を与えるべきである。また、盗品等を繰り返し取り扱う悪徳商人は、商法で取り締まるようにできないのか。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館とも入館者数、売上ともに昨年並であった。例年、6月～8月は雨や暑さの影響で客足は減少する。秋に期待したい。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界全体の生産量としては、6月とほぼ同様であった。自動車関連は若干の落ち込み傾向にあったが、建築関連金物は6月に比べ少しの増加傾向にあり、全般的にほぼ同様であった。半導体関連は、前月の見通し通り増加傾向にあり、今年いっぱいこの傾向にあると観測される。
	一般機器	四日市	今年は四日市で市長選が行われる。現職が引退するので新しい人が首長に選ばれる。県下最大都市の四日市も、このところ経済に活気が見られない。交通アクセス、教育等抜本的な改革が望まれる。新市長に期待する。
電気機器	鳥羽	受発注が昨年同期に比べ、30%～40%落ちたままで回復力がない。加えて、コスト競争が激化し、原価率を割る状況も出ている。	
輸送機器	鈴鹿	受注量は前月に引き続き昨年同期と大差なく、特に目立った動きはなかった。退職者の補充で求人をかけているが、以前よりも応募者が減ってきている。人材派遣業者の話でも、6月以降は求職者が減っているとのことで、大型二輪車の生産が増え、稼働率が上がる秋以降の出入不足を懸念している。	
非製造業	小売業	青果	野菜：前半は、キャベツ・レタス・トマトが順調に入荷でお値打ちである。大根・人参などの根菜は、九州の天候不良で高値。ホーレン草も高温のため高い。後半は、人参・ジャガイモ・玉葱は不足気味で高い。特に玉葱は例年の倍くらいの価格である。果物：前半は雨が少なかったため、果物がおいしい。西瓜は天候に恵まれ、売れ行き良く、高め。桃は、入荷が多くなってきた。後半、全般的に味もよく、需要が高く、西瓜は長野県産が中心。梨の幸水・ハウスのみかん・桃・デラウエアーほか、規格外果物が豊富に入荷している。
		自転車	季節の移り変わりと共にスポーツ車を扱うショップは、商品の値上げもあり、売上が昨年比20%増を示したとの情報があった。しかし、相変わらず一般軽快車の動きが無い状況である。中旬に中部自転車ブロック会が三重県で開催された。(1)共同購買事業(2)安全点検普及活動(3)役員研修会(4)安全整備制度の普及(5)防犯登録活動(6)自転車店活性化を図る為の資材の配布(リーフレット作成等の事業を各県とも進めている。)その中に於いて今後、次世代へ引継ぐ何かを残す計画を考えてみようとの意見がまとまり、今後の課題とした。

非製造業	小売業	家電	7月に入り、猛暑日の連続、エアコン需要が大幅に増え、連日エアコンの据え付けに追われている。また、今夏の個展は参加店、来場客共にやや増加、販売面でも前年をクリアしている状況であり、商品別でもエアコン・冷蔵庫・洗濯機・4Kテレビ等好調に推移している。リオ・オリンピックもいよいよ開幕に近づき、4K対応テレビの動きも活発化してきており、お盆までの活気が期待できそうである。
		石油	7月度の燃料油販売数量は、例年になく暑い日が続いているため、車内冷房の影響により前年対比10.5%増販状況であった。原油価格も現状傾向であり、看板価格も大きな変動はなかった。平成27年度末の全国SS数が3万2,333か所と前年度末比1,177か所減少しており、今後、増々低燃費自動車の普及により、毎年1,000か所以上のSSが減少していく状況であり、地域での過疎化対策と合わせて大変厳しい状況になりつつある。
		スポーツ用品	アベノミクスの効果に期待するところだが、なかなか我々の業界までは届いていない。無理をし、ビジネスの範囲を広げた組合員の中で規模の縮小を強いられている組合員もいる。最近、会社でのスポーツの用品の買い上げがほとんどない状態である。以前は、バレー、野球、卓球等のチームなどの社員の福利厚生で予算で購入していたが、それも見られない状態である。
	商店街	熊野	昨年から取り組んでいる商店街の空き店舗を活用したチャレンジシップ事業の第3次募集を今月中旬に行い、選考の結果、2次募集から入店された若手事業者が継続選定された。選考理由は、意欲的に店舗経営を進め、顧客を増加させたことが主な要因。今後は、補助終了後も継続経営を商店街内で行ってもらえるよう一体の取り組みが必要と感じる。
	サービス業	旅館	昨年は式年遷宮以来、減少傾向が続いていた入込客数が、地域振興旅行券の発売と伊勢志摩サミットが決定したこともあって出足は好調であったが、今年は台風もなく、好天に恵まれたにもかかわらず、地域差はあるものの全般的には前年に比べ低調であった。
		警備	公共工事がやや稼働の兆しが見えてきて、前年並みとなってきた。
	建設業	建設業	年度当初は、順調なスタートを切ったが、ここにきて対前年比10%減と息切れをし、通年ペースでも7%減と厳しい状況となっている。政府の大型補正予算が一日でも早く実現することを望んでいる。
		内装工事業	7月は、売上等6月までの減少傾向に歯止めがかかり、対前年同月比は増加となった。なんとか8月以降もこのような状況が続くことを願う。
		水道工事業（四日市）	今月は特に大きな動きは見られなかった。参議院選挙が行われたが、業況に大きな影響はなかったと思われる。
	運輸業	トラック	景気の停滞感を実感している。輸送需要が減少傾向である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	小麦粉（あやひかり）のブランド力を高めるために新しい情報があれば提供してほしい。
繊維工業	衣料縫製	中国以外の外国人技能実習生の情報がほしい。
一般機器	四日市	サミット効果はほとんど見られない。観光客が少し増えた程度、中小企業の環境は厳しい状況にある。
	伊勢	電気料金で再エネ賦課金の値上げ等があり、動力費のコスト増を余儀なくされ、企業の収益を圧迫している。最低賃金も引き上げが予想され、様々な法改正に企業の対応が追いついていくのは年々厳しくなっていくように感じる。
サービス業	旅館	伊勢志摩サミット効果が集客に繋がるよう取り組んでもらいたい。国内においては、関西市場への積極的なPR、インバウンドでは、関西空港インの旅行者の取り組みに注力してもらいたい。
運輸業	トラック	景気拡大策の実施。